

抗 Taf11 (*S. cerevisiae*) 抗体、ウサギ抗血清

62-017 100 µl

保存： 4℃または-20℃で送付、長期保存は-20℃

免疫原：組換え体 His-tag Taf11 (1-176 aa)

形状： ウサギ抗血清(0.1% アジ化ナトリウム添加)

反応性：出芽酵母。他の種では試していない。

用途： ウェスタンブロッティング(1/500-1/1,000)。他の用途はテストしてない。

背景：基本転写因子 TFIID は、真核生物の遺伝子発現調節において中心的な役割を果たすことが知られており、TATA ボックス結合タンパク質 (TBP) と 14 種類の TBP 随伴タンパク質 (TAF) から成る巨大なタンパク質複合体である。TFIID は、転写開始点近傍に存在する各種のコアプロモーターエレメントを直接認識して結合し、他の基本転写因子群が集合するための足場を形成するとともに、転写調節因子に由来する転写活性化シグナルを RNA ポリメラーゼ II に伝達する役割を持つとされている。Taf11p は TFIID サブユニットの一つであり、出芽酵母の場合、346 個のアミノ酸残基 (aa) から構成される(分子量 40,619)。

データリンク SGD [TAF11/YML015C](#)

文献: 本抗体は下記の論文に記載され、使われた。

1. Takahata S et al “Autonomous function of the amino-terminal inhibitory domain of TAF1 in transcriptional regulation.” *Mol Cell Biol* **24**: 3089-3099 (2004) PMID: [15060133](#)
2. Kasahara K. et al. *Saccharomyces cerevisiae* HMO1 interacts with TFIID and participates in start site selection by RNA polymerase II. *Nucleic Acid Res.* 2008 Mar;36(4):1343-57. doi: 10.1093/nar/gkm1068 PMID: [18187511](#)

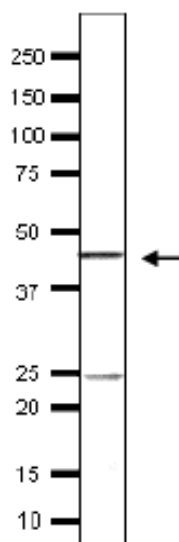


図 抗 Taf11 抗体を用いたウェスタンブロッティングによる出芽酵母粗抽出液中の内在性 Taf11 の検出。
抗体は 500 倍希釈で用いた。40.6 kDa のバンド。